



8月24日に世界同時発売されたWindows95は24時間で800万本を売り上げ、マスコミでも発売日のフィーバーぶりは大きく報道された。しかし、とくにネットワーク機能に関しては、これまでのWindows3.1と何が違うのか、Windows95の登場によってこれから何が変わっていくのかなどについては、まだあまり語られていない。そこで、発売間もない8月29日、マイクロソフト株式会社を訪ね、代表取締役会長である古川享氏にそのあたりをうかがってみた。

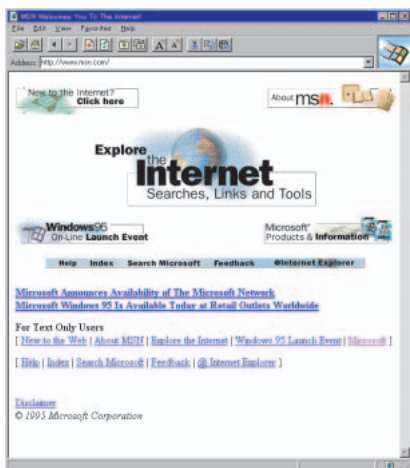
インタビュー 本誌編集長 井芹昌信

マイクロソフト株式会社 代表取締役会長 古川 享

① 最初からあんまり面白い話じゃないですが、Windows95が発売される寸前になってアメリカで訴訟騒ぎになりましたよね。たしか、Windows95にThe Microsoft Network（以下、MSNと略す）のアクセスツールをバンドルするのは独占禁止法違反の疑いがあるということだったと記憶していますが、結局そのままの格好でとくに変更しなくてすんだわけですか？

うん。この件に関しては、いまはなるべく発言を差し控えているんだ。こういつときて、何を言ってもよからぬうわさを広げちゃうからね。ただ、これだけはぜひ理解してもらいたいんだが、Windows95をインストールするときに、従来からコンピュータやAOLを使っているユーザーの方は、「そのまま続けますか？」ってことが真っ先に出てくるので、そこでYESって答えれば、それ以降ワンボタンでAOLやコンピュータにアクセスできるようになる機構がついているんだ。いままでだったらWindows3.1のなかから通信アプリケーションを起動してネットワークに入っていたけど、Windows95ではより使いやすい形で直観的に既存のネットワークにアクセスできるようになったんだ。

① MSNはサービスの形からみればAOLや



言葉でしかインターネットの世界を知らなかった多くのユーザーが、これでようやく体感できるようになり、ネットワークの海を気ままに泳いで必要な情報を手に入れるといったことができるようになるんじゃないかな。



コンピュータと同じBBSですよ。でもMSNに加入すると同時に、インターネットにアクセスすることもできるようになる。マイクロソフトとしては、インターネットをどういうふうに位置付けているんですか？

MSNはインターネットに敵対していくものだと思えている人がきっと多いと思うんだけど、最近ビル・ゲイツは「MSN is a service under the Internet」と言っているんだよ。

① 本当ですか？

うん。大きなインターネットの傘の下にあって、よりよいサービスを提供するために、MSNみたいなアプローチの仕方があってもいいんじゃないだろうかっていう説明の仕方をしているんだ。

インターネットの世界の中ではセキュリティだとかエレクトリックコマースを彼らが独自に実現しているの認めながら、MSNはMSNなりのアプローチをしている。たとえば、セキュアなネットワークのつくり方や情報のコンテンツを提供したい人にビジネスの場を提供する方法といったことを考え

ているんだ。

そういう考え方は、Windows95のツール戦略にも反映されていて、実際に使っているときに「ここまで考えているなら、きっとインターネットの人たちにも嫌われないだろうな」と思ったんだけど、インターネットエクスプローラーでネットサーフィンしているときに、たとえばサッカーの試合の結果のページがあって、それをいつも見たいと思ったら、ドラッグアンドドロップでデスクトップにもってこることができる。見たいときには、そのアイコンをポンポンとたたくと、インターネットエクスプローラーを起動して、そのディレクトリまでいって、サッカーの試合の結果を表示してくれる。そこまで、いきなりワンボタンでとんでいくわけなんだ。

① 今回のWindows95では、とくにネットワーク機能が強いじゃないですか。その中でもいちばん注目すべきなのは、やっぱりMSNですか？

ネットワークという意味からいうと、MSNとExchangeかな。

① Exchangeはあんまりみんな知らないと思うんですよ。ちょっとExchangeの説明というのを読者向けにしてもらえませんか。

たとえば、チームで仕事をしていることを考えると、自分の机に向かっているときは“半オンライン”で、会議に出ているときは“フルオンライン”で、出張に行って

いるときは完全な“オフライン”で仕事をしているというふうに見えると思うんだ。ときどき会って一緒に仕事をし、その時間を共有したことによって、たとえば1つのアイデアが生まれ、また机の上に戻って仕事をするってことを繰り返しているわけ。ところが、今のコンピュータの利用方法って完全にブツツて切れてて、ときどきフロッピーで文書のやりとりをするとか、ネットワークでつなげてデータをやりとりをするとか、忘れた頃に手紙を書いてお互いの意思疎通を図るってぐらいの話で、細い糸もしくは時間差のある糸でしかつながっていない。だけどExchangeの場合には、グループで仕事をしたときに、どういう呼吸が生まれ

けじゃなくて、コンピュータ同士をつないで分散コンピューティングをすることができると。

①MSNとExchangeのほかに注目すべきものという何ですか？

FAXとかTAZZ、それからRASってとこかな。FAXは、例のATWORKの開発のなかで生まれたプロトコルが組み込まれているんだ。

②ATWORKで培ったこととか、決めたことがWindows95で使われているのですか？

でも、TAZZが出てきたことによって、他の入出力インターフェイスと音声処理を関連させることができるようになったんだ。それから、意外かもしれないけど、RASを思いっきり使うとやっぱり便利だね。アメリカへ出張していようが、自宅にいようが、とにかくRASでつないだら「自分の机の上にあのファイル置いてきちゃったよ、しまったな」といったことをまったく気にする必要がないんだ。会社のサーバーも自分のマシンも全部使えるわけ。それと、何もかも全部うちへ持って帰ったり出張に持って行ったりしなくても済むっていう安心感だとか、やっぱりやれることの幅が違ってくるね。



るとか、人間同士のチームワークみたいなもの、それをコンピュータ間で実現するっていう、まあ、マクロ的に言うともういうことなんだ。

③Exchangeはグループウェアですか？

完全なグループウェアかという、違う性格付けもあるんだけどね。Windows95に入っているクライアントのExchangeだけを見ているうちは、単なるファイルの共有や電子メールとどう違うかっていうことがまだよく見えないけど、これから先、Windows NTのサーバーの中でBack Officeを使うようになると、全貌が見えてくるんじゃないかな。

Exchangeの中にある環境っていうのは、単にメッセージなりデータのやりとりをするとかプログラムやリソースの共有をするだ

うん。いちばんかちと物として残ったのが、Windows95のなかに入っているFAXの送信プロトコルだね。これは単純にG3で相手に出しましょうというのじゃなくて、ヘッダーの中にマッピングを含めた情報をちゃんとつけて出しているんで、ファイルをアタッチして転送するとか、相手の画面のレゾリューションに合わせたレンダリングをするとかってことをしているんだ。

それから、TAZZっていうのは音声認識だとか音声発生だとかテレフォニーアプリケーションだとかを組んだときに、それらのアプリケーションをどうやって連動させるかっていうインターフェイスなんだけど、いままでは、それぞれのアプリケーションとどう連動するかといった切り口がなかったから、これらの機能はアプリケーションの内側に抱きかかえちゃったり、せいぜいライブラリーにする程度だったよね。

面白いのは、イーサネットをアクセスした瞬間にどこかのゲートウェイが壊れていて、USまで行けないってことがときどきあるよね。そこから先、仕事ができなくなっちゃうよね。だけどRASをインストールしておく、国際線がつぶれていてシアトルのサーバーがアクセスできないとわかった瞬間に「イーサネットの途中のゲートウェイが落ちているのでRASで接続し直しますか」ってポップアップでメッセージが出てくる。もちろんアクセスしたあとはイーサネットじゃないからスピードは遅いけど、少なくともやらなくてはいけない仕事は確実に実現できるわけだ。

④ところで、ネットワーク上でのビジネスについてなんですけど、インターネットのいいところは、みんなが規格を決めるってことですよ。たとえば料金を徴収するんで

もいい、アプリケーションというよりは運営システムそのものをつくっていきっていくビジネスチャンスが、インターネットのなかにはいっぱいあると思うんですよ。

MSNも、これからどんどん大きくなっていくと、MSNのユーザーはインターネットのユーザーと同じくらい、ひょっとしたらもっと多くて何千万になるかもしれないですよ。そのときにMSNのなかで、同じようなシステムをつくるってことは可能ですか？

システム？

① MSNのなかで別なシステムをつくるってこと。たとえば、別の料金徴収システムを

うちが握り締めるようなことって、はたして健康的かっていうと、違うでしょ。

① それは、われわれマイクロソフトの外から見ると不健康に見えるんですけど、でもマイクロソフトの立場だけを考えると、そうは言っても自分のプロダクトの中で勝手なことをやられても困るだろうし...

そう。だけどぼくたちがMSNで確実に実現しなければならぬことっていうのは、たとえば、入り口にガードマンがいて不審な人をチェックしていて、いつもお金を踏み倒している人がそうそう簡単に入ってこれないようにするだとか、いつも利用してくれ

上で開発するための、ネットワークのAPIみたいなものが提供されるかってことなんですけど...

それは、どこまで提供されるかなー？

① 最後に、古川さん個人の、これからやってくるネットワーク時代の夢とか構想みたいなものを聞かせてほしいんですけど。

やっぱり、ベルリンの壁が壊れたとか、日米の距離が縮まったとか、マイクロソフトの場合でも製品の出荷のタイムラグがずっと短くなったわけだけど、情報の格差といったものの壁が、Windows95の登場でくず



つくるってこういうよな。

もうそれは最初から考えているよ。

① マイクロソフトは許すわけですか？

だって、MSNのメールオーダーでテレビを買うとか、自動車を買うってときに、MSNの請求書に「自動車を1台」って書いてあるのは絶対へんでしょ？ 情報以外、何か物流まで含んだカタログ商売をやりたい人たちに関しては、入り口はMSNなんだけど、そこから先は、別の独り歩きした状態になっているってことが、当然考えられるね。

① でもそれって、何を意味するかっていうと、MSNはインフラに近いですよ。

逆に、すべてMSNの中で発生する商権を

るお客さんにははそれなりの待遇でサービスするとか、たとえば言えばデパートの果たすような機能だよ。やっぱり青空市とかバザーとは違うわけだから。

同じデパートでも、飲食店のように店子として入ってもらうときには、個別にその中で会計しているだろうし、ブランドの化粧品だったらそれは物品の仕入れという形になっていて、入金があったらそれはデパートのキャッシュレジスターの中に入っていくよ。

① 店子として入る場合なんですけど、場所を提供してもらって代わりにマージンを払うのはいいとして、でも中身は、勝手に品物を置いたり飾りつけたり、そういうことってできますか？ 自分の店の特長をだしたいってときに、それをつくるための技術情報はある程度開示されるのですか。MSNの

れたんじゃないかと思うのね。

インターネットでは、国籍だとか民族の壁を越えたり、距離っていうものを意識せずに情報を共有できるっていうカルチャーを持ってたわけだけど、それをいままでとは一桁も違うたくさんの人に使ってもらってという意味は、すごく大きいだろうなと思うね。

これまで言葉でしかインターネットの世界を知らなかった多くのユーザーが、これによってインターネットを体感できるようになり、ネットワークの海を気ままに泳いで必要な情報を手に入れるといったことができるようになるんじゃないかな。

やがて、ネットワークが自分の個人の道具としても使えるってことで裾野が広がったとき、これまで先駆者たちが築いてきたものが、きっと別の新しい価値を持ち始めるんだろうと思うんだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp